

# 【小施策評価(令和元年度実績評価)】

## 小施策の総合計画における位置付け

基本目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策 主管課等	学校教育課	
施策	17	子どもの教育の充実	評価 責任者	紀 修	内線 7330
小施策	17-1	小中学校教育の充実	評価 シート 作成者	吉田 尚	内線 7332

## 小施策の概要

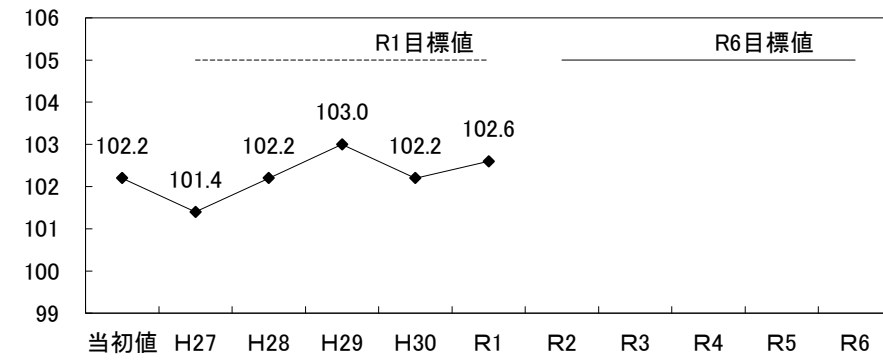
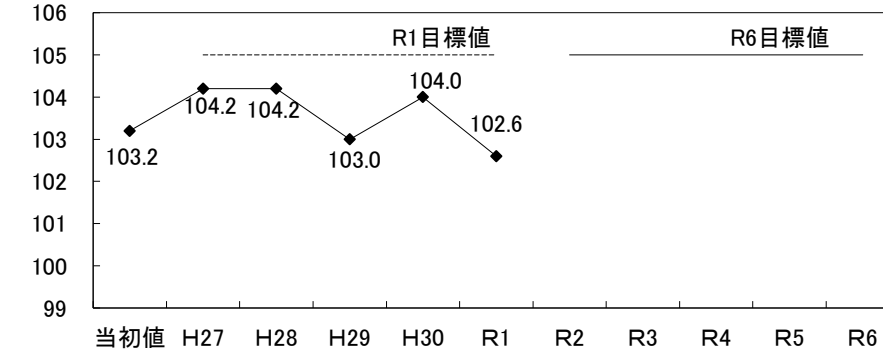
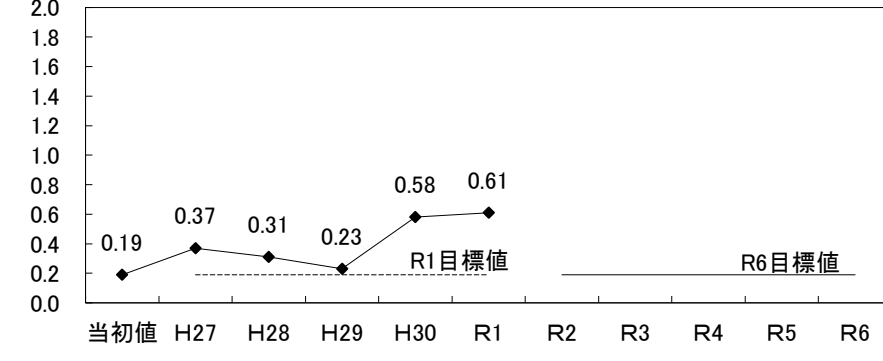
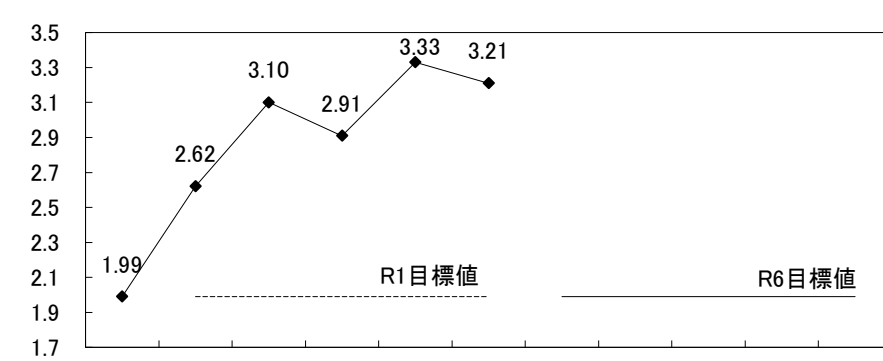
現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
<p>学力検査において、小学校の国語、算数及び中学校の国語、数学、英語とも全国水準を上回っているが、中学校の数学、英語は一層の向上を図る必要がある。また、義務教育9年間の系統性のある指導の充実を図る必要がある。</p> <p>いじめやスマートフォンの使用に係る問題が発生していることから、生命を尊重する心や他人を思いやる心など、道徳的価値の自覚を促し、豊かな人間性を育む必要がある。</p> <p>体力運動能力検査において、小中学校ともに走力に課題が見られることから、体力向上の取組の充実・改善を図る必要がある。また、学校給食については、老朽化した施設・設備の整備などを進める必要がある。子どもを取り巻く環境が大きく変化してきていることから、児童生徒・家庭・地域社会・学校・行政が連携を図り、それぞれの役割と責任を明確にしなが、地域の子どもは地域で育てるという市民協働の教育を推進する必要がある。</p>	<p>児童生徒の学力の実態を的確に把握しながら、基礎的・基本的な学力の向上を図る。また、各中学校区の実状に応じて、これまでの連続した教育活動をより一層強化するものとした小中一貫教育や、自立して社会で生きていくための基礎を育むキャリア教育、情報化社会に対応した情報モラル教育を進める。</p> <p>学校の教育活動全体を通じた道徳教育の充実のほか、いじめを「つくらない」「みのがさない」「のこさない」取組や不登校対策の充実を図る。また、小中学校児童生徒を対象に、盛岡の先人や風土・文化を盛り込んだ先人教育を進める。</p> <p>学校保健事業や体育振興事業の充実にも努めながら、児童生徒の健康の保持と体力・運動能力の向上を図る。また、学校給食については、都南学校給食センターをはじめとする老朽化した各調理場の適正な規模、配置などを検討し、計画的に改築等を進める。</p> <p>地域の教育課題を明確にしなが、学校と家庭、地域が一層連携を深め、地域に根ざした教育振興運動を展開する。</p>
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
小中学生	・学力の向上が図られる。・心身ともに健全育成が図られる。

## 小施策の成果指標の達成状況・評価(令和元年度実績)

実績値の推移				実績の評価													
指標	単 位	目指す方向	成果点	成果の要因分析	問題点												
小中学校学力検査の全国水準(100)との比較 【小学校4年生・国語】	ポイント	↗	・数研式全国標準学力検査(NRT)の結果において、全国平均より高い水準であった。各領域の平均正答率では、「書くこと」領域の全国比が117であり、「話すこと・聞くこと」領域、「読むこと」領域及び「伝統的な言語文化と国語の特質」領域でも全国平均を上回っている。	・盛岡市学力向上推進事業において、全市的な共通取組内容である「見通しをもつ活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」を位置付けた授業が浸透したことによると考えられる。	・児童生徒質問紙調査(5年生)において、家庭学習に1時間以上取り組んでいると回答する児童が増加したことによると考えられる。												
当初値 (H25)	110.6	R1目標値	113.0	R6目標値	113.0												
<table border="1"> <caption>指標① 実績値の推移</caption> <tr><th>年度</th><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td></tr> <tr><th>値</th><td>110.6</td><td>110.4</td><td>110.6</td><td>111.0</td><td>107.6</td></tr> </table>						年度	H27	H28	H29	H30	R1	値	110.6	110.4	110.6	111.0	107.6
年度	H27	H28	H29	H30	R1												
値	110.6	110.4	110.6	111.0	107.6												
<p>・全国学力・学習状況調査(6年生)においても、全国平均より高い状況であった。</p> <p>・「読むこと」領域の小問内容「叙述に即した読み取り」において、誤答率が5割以上である。</p> <p>・全国学力・学習状況調査(6年生)においては、目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことに課題が見られた。</p>																	
小中学校学力検査の全国水準(100)との比較 【小学校4年生・算数】	ポイント	↗	・数研式全国標準学力検査(NRT)の結果において、全国平均より高い水準であった。各領域の平均正答率では、「数量関係」領域の全国比が115であり、「数と計算」領域、「量と測定」領域及び「図形」領域でも全国平均を上回っている。	・盛岡市学力向上推進事業において、全市的な共通取組内容である「見通しをもつ活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」を位置付けた授業が浸透したことによると考えられる。	・児童生徒質問紙調査(5年生)において、家庭学習に1時間以上取り組んでいると回答する児童が増加したことによると考えられる。												
当初値 (H25)	108.4	R1目標値	110.0	R6目標値	110.0												
<table border="1"> <caption>指標② 実績値の推移</caption> <tr><th>年度</th><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td></tr> <tr><th>値</th><td>108.4</td><td>107.4</td><td>107.0</td><td>108.0</td><td>106.2</td></tr> </table>						年度	H27	H28	H29	H30	R1	値	108.4	107.4	107.0	108.0	106.2
年度	H27	H28	H29	H30	R1												
値	108.4	107.4	107.0	108.0	106.2												
<p>・全国学力・学習状況調査(6年生)においても、全国平均より高い状況であった。</p> <p>・「図形」領域の小問内容「二等辺三角形の説明」「二等辺三角形をかく」において、誤答率が5割を超えている。</p> <p>・全国学力・学習状況調査(6年生)においては、計算の仕方を理解し、適用していくことに課題が見られた。</p>																	
小中学校学力検査の全国水準(100)との比較 【中学校2年生・国語】	ポイント	↗	・数研式全国標準学力検査(NRT)の結果において、全国平均より高い水準であった。各領域の平均正答率では、「書くこと」の全国比が111であり、「話すこと・聞くこと」領域、「読むこと」領域及び「伝統的な言語文化と国語の特質」領域でも全国平均を上回っている。	・盛岡市学力向上推進事業において、全市的な共通取組内容である「見通しをもつ活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」を位置付けた授業が浸透したことによると考えられる。	・児童生徒質問紙調査(3年生)において、家庭学習に1時間以上取り組んでいると回答する生徒が増加したことによると考えられる。												
当初値 (H25)	104	R1目標値	107	R6目標値	107												
<table border="1"> <caption>指標③ 実績値の推移</caption> <tr><th>年度</th><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td></tr> <tr><th>値</th><td>103.8</td><td>105.0</td><td>105.8</td><td>105.0</td><td>104.2</td></tr> </table>						年度	H27	H28	H29	H30	R1	値	103.8	105.0	105.8	105.0	104.2
年度	H27	H28	H29	H30	R1												
値	103.8	105.0	105.8	105.0	104.2												
<p>・全国学力・学習状況調査(3年生)においても、全国平均より高い状況であった。</p> <p>・「読むこと」領域の小問内容「行動と理由の読み取り」「叙述に即した読み取り」において誤答率が6割を超えている。また、「要点をまとめる」「要点の読み取り」において、無答率が6割を超えている。</p> <p>・全国学力・学習状況調査(3年生)においては、話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつことに課題が見られた。</p> <p>・文章全体をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえた読みの不足が考えられる。また、要点をまとめたり書いたりする学習活動の不足も考えられる。</p> <p>・全国学力・学習状況調査(3年生)においては、話し合いの進め方を意識した活動の不足が考えられる。</p>																	

## 今後の方向性(令和2年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R2年度着手済または着手予定 ☆…R3年度以降の着手を検討
<p>★ 校内研究会において、全市的な共通取組内容である「見通しをもつ活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」の学習活動の意味・意義の説明を繰り返すとともに、言葉に着目しながら「考えを深める学び合い」の保障につながる具体的な指導・助言を行う。</p> <p>★ 「各種学力調査における誤答や無回答の要因を分析し、指導に生かすこと」、「『確かな学力育成プラン』の年度をまたいだ共有」を通して、指導改善のCAPDサイクルを機能させる。</p> <p>★ 家庭学習について量的な改善が図られてきているため、質的な改善を図るとともに、主体的に取り組む児童を育成する。</p>	
<p>★ 校内研究会において、全市的な共通取組内容である「見通しをもつ活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」の学習活動の意味・意義の説明を繰り返すとともに、学習内容を関連させながら「考えを深める学び合い」の保障につながる具体的な指導・助言を行う。</p> <p>★ 「各種学力調査における誤答や無回答の要因を分析し、指導に生かすこと」、「『確かな学力育成プラン』の年度をまたいだ共有」を通して、指導改善のCAPDサイクルを機能させる。</p> <p>★ 家庭学習について量的な改善が図られてきているため、質的な改善を図るとともに、主体的に取り組む児童を育成する。</p>	
<p>★ 校内研究会において、全市的な共通取組内容である「見通しをもつ活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」の学習活動の意味・意義の説明を繰り返すとともに、文章を目的的に読みながら「考えを深める学び合い」の保障につながる具体的な指導・助言を行う。</p> <p>★ 「各種学力調査における誤答や無回答の要因を分析し、指導に生かすこと」、「『確かな学力育成プラン』の年度をまたいだ共有」を通して、指導改善のCAPDサイクルを機能させる。</p> <p>★ 家庭学習について量的な改善が図られてきているため、質的な改善を図るとともに、主体的に取り組む生徒を育成する。</p>	

<p>指標④ 小中学校学力検査の全国水準(100)との比較【中学校2年生・数学】</p>	<p>単位 ポイント</p>	<p>目指す方向 ↗</p>	<p>成果点</p> <p>・数研式全国標準学力検査(NRT)の結果において、全国平均より高い水準であった。各領域の正答率では、「資料の活用」領域の全国比が119であり、「図形」領域でも全国平均を上回っている。なお、「数と式」領域と「関数」領域は全国平均と同程度であった。</p> <p>・全国学力・学習状況調査(3年生)においては、全国平均と同程度の状況であった。</p>	<p>成果の要因分析</p> <p>・盛岡市学力向上推進事業において、全市的な共通取組内容である「見通しをもつ活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」を位置付けた授業が浸透したことによると考えられる。</p> <p>・児童生徒質問紙調査(3年生)において、家庭学習に1時間以上取り組んでいると回答する生徒が増加したことによると考えられる。</p>
<p>当初値 (H25) 102.2 R1目標値 105.0 R6目標値 105.0</p>			<p>問題点</p> <p>・「数と計算」領域の小問内容「正負の数の計算」「1次方程式を解くこと」において正答率が5割を下回っている。また、「正負の数の活用・説明」「比例の利用・説明」において、無答率が5割を超えている。</p> <p>・全国学力・学習状況調査(3年生)においては、事象を数学的に解釈して、問題解決の方法を数学的に説明することに課題が見られた。</p>	<p>問題の要因分析</p> <p>・計算技能が定着まで至っていないことや授業における考えを数学的に表現し伝え合う学習活動の不足が考えられる。</p> <p>・全国学力・学習状況調査(3年生)においては、問題解決の方法について説明したり、吟味したりする活動が不足と考えられる。</p>
				
<p>指標⑤ 小中学校学力検査の全国水準(100)との比較【中学校2年生・英語】</p>	<p>単位 ポイント</p>	<p>目指す方向 ↗</p>	<p>成果点</p> <p>・数研式全国標準学力検査(NRT)の結果において、全国平均より高い水準であった。各領域の正答率では、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4領域で全国平均正答率を上回っている。</p>	<p>成果の要因分析</p> <p>・盛岡市学力向上推進事業において、全市的な共通取組内容である「見通しをもつ活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」を位置付けた授業が浸透したことによると考えられる。</p> <p>・児童生徒質問紙調査(3年生)において、家庭学習に1時間以上取り組んでいると回答する生徒が増加したことによると考えられる。</p>
<p>当初値 (H25) 103.2 R1目標値 105.0 R6目標値 105.0</p>			<p>問題点</p> <p>・「書くこと」領域の小問内容「適語選択 be動詞」「語順整理 疑問詞」において、誤答率が6割を超えている。</p> <p>・全国学力・学習状況調査(3年生)においては、全国平均を下回る状況であった。</p> <p>・「聞いて把握した内容について、適切に応じる」ことに課題が見られた。</p>	<p>問題の要因分析</p> <p>・正しい文法について、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の全領域でバランスよい指導の不足と考えられる。</p> <p>・全国学力・学習状況調査(3年生)においては、目的や場面、状況等に応じて考え、表現する活動(聞くこと・話すこと)の不足と考えられる。</p>
				
<p>指標⑥ 不登校児童の出現率【小学校】</p>	<p>単位 ポイント</p>	<p>目指す方向 ↘</p>	<p>成果点</p> <p>・出現率は増加しているが、平成30年度に不登校の報告があった児童のうち、令和元年度に約4割が解消に至っている。</p>	<p>成果の要因分析</p> <p>・欠席3日で校内「対応チーム」を発足するなど、組織的な対応をすることが浸透してきていることによると考えられる。</p> <p>・学校外の関係機関やスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの連携により、支援の充実が図られたことによると考えられる。</p>
<p>当初値 (H25) 0.19 R1目標値 0.19 R6目標値 0.19</p>			<p>問題点</p> <p>・出現率は目標値に比べて、高いまま推移している。</p> <p>・不登校の人数は、87人となっており、小学校6年生が最も多く、全体の1/3を占めている。</p> <p>・全国の出現率0.70 岩手県の出現率0.48(平成30年度)</p> <p>・令和元年度の数値は参考値(新型コロナウイルス感染症による休業のため)</p>	<p>問題の要因分析</p> <p>・発達の段階から考え、家庭環境における自分が置かれている状況を認識したり、人間関係づくりや学習面に困難を感じたりするなど、不安や悩みを抱える児童が増加している。</p>
				
<p>指標⑦ 不登校生徒の出現率【中学校】</p>	<p>単位 ポイント</p>	<p>目指す方向 ↘</p>	<p>成果点</p> <p>・令和元年度は減少に転じた。</p> <p>・年度後半(10月以降)の新規不登校生徒の出現が抑制された。</p>	<p>成果の要因分析</p> <p>・不登校生徒への対応として、不登校児童生徒個票を活用したり、SSWと連携したり、適応指導教室「ひろばモリーオ」や医療、福祉等の関係機関と連携したりする等、各校の実態に応じた対策を心がけていることによると考えられる。</p> <p>・各中学校において、「居場所づくり」や「絆づくり」についての実践が工夫されたことによると考えられる。</p>
<p>当初値 (H25) 1.99 R1目標値 1.99 R6目標値 1.99</p>			<p>問題点</p> <p>・出現率は目標値に比べて、高いまま推移している。</p> <p>・不登校の人数は、227人となっており、不登校生徒の数は、中学校3年生が最も多く、中学校全体の約42%を占めた。次いで、中学校2年生が全体の約32%を占めている。</p> <p>・全国の出現率3.65 岩手県の出現率3.12(平成30年度)</p> <p>・令和元年度の数値は参考値(新型コロナウイルス感染症による休業のため)</p>	<p>問題の要因分析</p> <p>・要因の分類では、「家庭の生活環境の急激な変化、親子関係をめぐる問題、家庭内の不平等」といった家庭に係る状況や、「生活リズムの乱れ、無気力、不安」といった本人に係る状況の割合が増加傾向にある。</p> <p>・「学業の不振、友人関係をめぐる問題」など学校に係る状況も含め、不登校の要因や背景が、年々多様化しており、家庭との連携を含めた各校における対応が難しくなっていることによると考えられる。</p>
				

<p>★ 校内研究会において、全市的共通取組内容である「見通しをもつ活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」の学習活動の意味・意義の説明を繰り返すとともに、数学的に表現し伝え合いながら「考えを深める学び合い」の保障につながる具体的な指導・助言を行う。</p> <p>★ 「各種学力調査における誤答や無回答の要因を分析し、指導に生かすこと」、「『確かな学力育成プラン』の年度をまたいだ共有」を通して、指導改善のCAPDサイクルを機能させる。</p> <p>★ 家庭学習について量的な改善が図られてきているため、質的な改善を図るとともに、主体的に取り組む生徒を育成する。</p>
<p>★ 校内研究会において、全市的共通取組内容である「見通しをもつ活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」の学習活動の意味・意義の説明を繰り返すとともに、領域を関連させながら「考えを深める学び合い」の保障につながる具体的な指導・助言を行う。</p> <p>★ 「各種学力調査における誤答や無回答の要因を分析し、指導に生かすこと」、「『確かな学力育成プラン』の年度をまたいだ共有」を通して、指導改善のCAPDサイクルを機能させる。</p> <p>★ 家庭学習について量的な改善が図られてきているため、質的な改善を図るとともに、主体的に取り組む生徒を育成する。</p>
<p>★ 「新規不登校児童の抑制」が最大の鍵である。不登校を未然に防ぐ学級経営や、学習指導の充実を図り、「居場所づくり」や「絆(きずな)づくり」を通して、全ての児童にとって「不登校にならない、魅力ある学校づくり」を推進する。</p> <p>★ 「欠席3日で校内『対応チーム』を発足し、ケース会議を開催する。」という初期対応の基本の徹底について、指導・助言を行う。</p> <p>★ 不登校・別室登校が継続している児童の再登校・学級復帰支援の充実を図るため、「不登校児童生徒個票」を基にした、「具体的計画立案→対応→評価→改善」のPDCAサイクルによる「対応チーム」での組織的な対応の強化に向けて支援する。</p> <p>★ スクールソーシャルワーカーや医療、福祉等の関係機関とのさらなる連携を図る。</p>
<p>★ 「新規不登校生徒の抑制」が最大の鍵である。不登校を未然に防ぐ学級経営や、学習指導の充実を図り、「居場所づくり」や「絆(きずな)づくり」を通して、全ての生徒にとって「不登校にならない、魅力ある学校づくり」を推進する。</p> <p>★ 「欠席3日で校内『対応チーム』を発足し、ケース会議を開催する。」という初期対応の基本の徹底について、指導・助言を行う。</p> <p>★ 不登校・別室登校が継続している生徒の再登校・学級復帰支援の充実を図るため、「不登校児童生徒個票」を基にした、「具体的計画立案→対応→評価→改善」のPDCAサイクルによる「対応チーム」での組織的な対応の強化に向けて支援する。</p> <p>★ スクールソーシャルワーカーや医療、福祉等の関係機関とのさらなる連携を図る。</p>

指標⑧ 体力運動能力調査の全国標準(100)との比較【小学校5年生:男】	単 位	目指す方向	成 果 点	成果の要因分析	
	ポイント	↗			
当初値 (H25)	97.8	R1目標値	101.0	R6目標値	101.0
<p>・50m走・20mシャトルラン・反復横跳び・立ち幅跳び・ソフトボール投げ・長座体前屈・握力・上体そらしの8種目の調査結果による。</p> <p>・過去の体力調査結果では、落ち込みが見られる学年ではあるが、筋力(握力)が全国標準値を上回っている。</p>			<p>・体育の授業等での運動量確保や、盛岡市と体育協会と協力し、SAQTトレーニングの取組によって改善が図られている要因の一つと考えられる。</p>		
問 題 点			問題の要因分析		
<p>・盛岡市の全身持久力(20mシャトルラン)とスピード(50m走)は、改善が図られてきているが、全国標準値を下回っている現状である。</p>			<p>・正しい姿勢で歩いたり走ったりできる児童が減少してきている。</p> <p>・登下校時の保護者による送り迎えが増えてきていることも要因の一つと考えられる。</p>		
指標⑨ 体力運動能力調査の全国標準(100)との比較【小学校5年生:女】	単 位	目指す方向	成 果 点	成果の要因分析	
	ポイント	↗			
当初値 (H25)	100.5	H31目標値	101.0	H36目標値	101.0
<p>・50m走・20mシャトルラン・反復横跳び・立ち幅跳び・ソフトボール投げ・長座体前屈・握力・上体そらしの8種目の調査結果による。</p> <p>・過去の体力調査結果では、筋力(握力)と敏捷性(反復横とび)に優れている学年であり、令和元年度では筋力(握力)、敏捷性(反復横とび)、瞬発力(立ち幅跳び)が全国標準値を上回っている。</p>			<p>・体育の授業等での運動量確保や、盛岡市と体育協会と協力し、SAQTトレーニングの取組によって改善が図られている要因の一つと考えられる。</p>		
問 題 点			問題の要因分析		
<p>・盛岡市の全身持久力(20mシャトルラン)とスピード(50m走)は、改善が図られてきているが、全国標準値を下回っている現状である。</p>			<p>・正しい姿勢で歩いたり走ったりできる児童が減少してきている。</p> <p>・登下校時の保護者による送り迎えが増えてきていることも要因の一つと考えられる。</p>		
指標⑩ 体力運動能力調査の全国標準(100)との比較【中学校2年生:男】	単 位	目指す方向	成 果 点	成果の要因分析	
	ポイント	↗			
当初値 (H25)	100.4	R1目標値	102.0	R6目標値	102.0
<p>・50m走・20mシャトルラン・反復横跳び・立ち幅跳び・ソフトボール投げ・長座体前屈・握力・上体そらしの8種目の調査結果による。</p> <p>・過去の体力調査結果では、投力(ソフトボール投げ)に優れている学年であり、令和元年度でも投力(ソフトボール投げ)が全国標準値を上回っている。</p>			<p>・体育の授業等での運動量確保や、部活動での運動量確保と休養のバランスがとれたことなどによって基礎体力の強化が図られていることが要因の一つと考えられる。</p>		
問 題 点			問題の要因分析		
<p>・盛岡市の全身持久力(20mシャトルラン)とスピード(50m走)は、改善が図られてきているが、全国標準値を下回っている現状である。</p>			<p>・盛岡市の全身持久力(20mシャトルラン)とスピード(50m走)の値も上がってきている現状であるが、全国基準値も上がっている。</p> <p>・運動に対して、正しく身体を動かすことができない生徒が多い。</p>		
指標⑪ 体力運動能力調査の全国標準(100)との比較【中学校2年生:女】	単 位	目指す方向	成 果 点	成果の要因分析	
	ポイント	↗			
当初値 (H25)	100.2	R1目標値	102.0	R6目標値	102.0
<p>・50m走・20mシャトルラン・反復横跳び・立ち幅跳び・ソフトボール投げ・長座体前屈・握力・上体そらしの8種目の調査結果による。</p> <p>・過去の体力調査結果では、筋力(握力)、筋持久力(上体そらし)、柔軟性(長座体前屈)に課題が見られたが、改善が図られ全国標準値を上回っている。</p>			<p>・体育の授業等での運動量確保や、部活動での運動量確保と休養のバランスがとれたことなどによって基礎体力の強化が図られていることが要因の一つと考えられる。</p>		
問 題 点			問題の要因分析		
<p>・盛岡市の全身持久力(20mシャトルラン)とスピード(50m走)は、改善が図られてきているが、全国標準値を下回っている現状である。</p>			<p>・盛岡市の全身持久力(20mシャトルラン)とスピード(50m走)の値も上がってきている現状であるが、全国基準値も上がっている。</p> <p>・運動に対して、正しく身体を動かすことができない生徒が多い。</p>		

<p>★ 徒歩の登下校を呼びかけや日常的な外遊びを働きかける等、基礎体力の向上を図っていく。</p> <p>★ 体力向上に係っての実践を研究発表会や公開講座で広めることにより、各学校に浸透させながら体力向上を図っていく。</p> <p>★ 研究発表会での実践発表では、「走る」に特化し研究を推進していく。</p> <p>★ 体育の授業等で取り組むウォーミングアップを浸透させながら体力向上を図っていく。</p>
<p>★ 徒歩の登下校を呼びかけや日常的な外遊びを働きかける等、基礎体力の向上を図っていく。</p> <p>★ 体力向上に係っての実践を研究発表会や公開講座で広めることにより、各学校に浸透させながら体力向上を図っていく。</p> <p>★ 研究発表会での実践発表では、「走る」に特化し研究を推進していく。</p> <p>★ 体育の授業等で取り組むウォーミングアップを浸透させながら体力向上を図っていく。</p>
<p>★ 小学校に引き続き、「走る」に特化し、体力の向上を図っていく。</p> <p>★ 体育の授業や部活動を通して、ウォーミングアップの重要性を理解させ、正しい身体の使い方を習得させることで、基礎体力の向上を図っていく。</p> <p>★ 体力向上に係っての実践を研究発表会や公開講座で広めることにより、各学校に浸透させながら体力向上を図っていく。</p>
<p>★ 小学校に引き続き、「走る」に特化し、体力の向上を図っていく。</p> <p>★ 体育の授業や、部活動を通して、ウォーミングアップの重要性を理解させ、正しい身体の使い方を習得させることで、基礎体力の向上を図っていく。</p> <p>★ 体力向上に係っての実践を研究発表会や公開講座で広めることにより、各学校に浸透させながら体力向上を図っていく。</p>